

委員会だより

< 2月12日(日) 9名出席 >

1. 挨拶

- (1) 渡辺神父ご挨拶 (鈴木神父は藤沢教会信徒大会御出席)
(2) 新委員自己紹介: 竹内(兼務)、岩渕

2. 連絡事項

(1) 行事計画

- ☞ 2月19日(日) 聖公会クリストファー教会との合同祈禱会
- ☞ 3月5日(日) 4月以降北海道に帰られる上杉神父様をお迎えする。(高野神父様との合同司式を予定) 交流会をサロンにて実施。

3. 審議事項

(1) マリア会からの要望事項関連

- a. 寄付の継続 (信徒大会時に意見あり)
◆フマニタス(1万円) ◆カリタスジャパン(2万円)
◆横浜いのちの電話(1万円)
継続するが、教会全体としてのバランスも必要であり、各々の趣旨を別途確認する。
- b. 営繕グループへのお願い
☞ 座りやすい椅子の設置・・・聖堂に体の不自由な方のための座りやすく軟らかい椅子の設置を検討する。
- c. 集会室の掲示板 ⇒ 鶴田さん製作、設置済み。有り難うございました。
- d. 連絡網
作成された案をベースに現在典礼委員会で検討中。

(2) 信徒大会関連

- a. 鈴木主任司祭からご指導のあった中和田カトリック教会委員会運営規定の変更 ⇒ 3月委員会にて継続審議
- b. 大会における各グループからの発表内容
☞ あらためて広報に掲載し、信徒の協力を求めることにする。各委員からの大会報告時の原稿を公報委員に提出し、適宜掲載していく。

(3) 06年度横浜教区典礼研修 (資料:「共同宣教司牧ニュース」)

当教会には福祉委員またはグループがない。第五地区の活動も行われているので、中和田としてもグループを立ち上げるよう検討して行く。

(4) 各グループからの報告

- a. 典礼 G: 新しい聖具(香炉、カリス、チボリウム、パテナ)が届いた。
- b. 行事 G: 男性の参加を望む。ヨゼフ会でも働きかける。
- c. 広報 G: 連絡網の配布方法を検討要。
- d. 財務 G: 甲斐さんと山田さんの二名体制にて進める。
- e. 布教 G: 湘南セミナーは11月11日(土)、18日(土)、25日(土)藤沢教会の予定です。詳細は別途決定されます。
- f. 要理 G:
◆グループ内の役割分担を明確化。
6年生、中学生: 高野神父、3～5年生: 石井(洋) 初聖体: 美底、1年生～年長: 森脇
◆堅信について: 今年は藤沢教会。
◆『要理学校』の名前は硬いので良い名前を考えたい。
- g. 営繕 G: 典礼委員会の中の生花グループからの提言: 聖堂の生花は教会の畑・各個人が提供する。花枯れ時期には従来取引の花屋さんより購入。

委員会後記 委員長 下村 毅

今月は、鈴木主任司祭が藤沢教会総会出席のため、渡辺司祭にご出席いただきました。委員会は、岩渕広報委員・竹内布教・典礼(兼任)新委員の自己紹介で始まりました。今回後記は、信徒の皆様にご協力をお願いしなければならないことがありますので、審議事項について2件のコメントを記します。

■ 一点目は、マリア会からの要望事項の対応です。(☆マリア会からの要望 ★教会委員会の審議結果)

☆「マリア会で実施していた寄付(・フマニタス・カリタスジャパン・横浜いのちの電話)の継続」の件
★「愛の献金」にて、当面(今のまま)継続しますが、「従来から、中和田教会として寄付をしているもの」を含めて、財務グループを中心に「どう整理していくか」等、検討していきます。

☆「聖堂へ座りやすい椅子の設置」の件
★(早い時期に) 営繕グループで、座りやすく立ち上がり易い椅子の設置を検討します。

☆「連絡網の整備」(マリア会解散のためヨゼフ会との統合)の件
★現在: 典礼委員会で検討中です(4～5月頃完成を予定しています)ので、暫く時間をいただくと共に、信徒の皆様には(中和田教会信徒の情報等)ご協力をお願いします。(それまでの間は、従来のヨゼフ会・マリア会連絡網で対応をお願いします。)

■ 二点目は、典礼委員会(生花グループより)からの報告です。

聖堂の生花は、従来、町の花屋さんから購入していましたが、教会の畑が完備してきたことにより、「聖堂の生花」は自分たちの手でほぼ賄える状況になり、その花を提供していただけることになりました。(なお、花枯れ次期は従来の花屋より購入することで了承いただいております。)

ヨゼフ会だより

< 2月19日(日) 10名出席 >

■ 連絡/報告事項

☞ 3月12日開催予定のサロンを、上杉神父様歓送会に合わせて3月5日に前倒し実施。

■ 議論:

- ☞ ヨゼフ会規定: 役員として幹事、会計に加え副幹事を置く。
- ☞ 山田さんが教会財務委員に専念されることになり、鶴田さんにヨゼフ会会計をお引き受け頂いた。
- ☞ 運営に関するご意見をご紹介します。
 - ◆親睦団体として「仲良くしていく」ことも大切だが、「カトリックとして何を目指していくのか」を考える場であって欲しい。
 - ◆世の中が「個」重視の潮流にある現在、「共同体」としての使命・役割を問い直すことも必要。
 - ◆世俗的な話に寄ったとしても、相互に正直な気持ちを吐露して、「深層に響く普遍性」を見出す努力をしたい。
- ☞ 昨年T氏が帰天されたことを今迄掌握出来ていなかったことに関して、いろいろなご意見が出ましたが、そのいくつかをご紹介します。
 - ◆ヨゼフ会があるのに掌握出来なかったのは遺憾である。恥ずかしい。
 - ◆それでは、いったいどうすればいいのか。
 - ◆例えば夫婦の一方のみが信徒のケースで、信徒の方が早く亡くなられた場合、どうしても連絡が遅れる場合がある。
 - ◆最近の傾向として、近親者のみの葬儀が増えている。
 - ◆また、ご本人の「迷惑をかけたくない」という意思が働く場合もある。
 - ◆信徒全員の気配り・連携で対応するしかない。敢えてこの為の規定化は必要ないのではないか。

■ その他

- ☞ 1月15日に開催された新年会(30名参加)の会計報告。残余金2,122円はヨゼフ会会計に繰入。
- ☞ ヨゼフ会当番表の確認

広報 なかわだ 第321号

3月の予定

灰の水曜日	3月 1日
上原神父様ご来訪	3月 5日
委員会	3月12日
ヨゼフ会	3月19日



2006年 3月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成18年3月5日

Yさんの話

主任司祭 鈴木 勁介



昨年から寒い日が続いていて、地球温暖化(高熱化)といわれているのにおかしいなと思っていたら、やはり高熱化の影響で寒気団の動きが変わったせいらしい。ものごと、あまり単純に考えるといけないよという教訓のようなものです。

その寒さのせいか、ずい分お葬式があつて忙しかったです。その中に、私の絵の仲間でもあつたYさんという老人もいらっしゃいました。この方は、定年後油絵を始めたのですが、ゴルフ、旅行、山歩き、テニス、読書など多才な方で、その上、ご自分の子供の世代の私たちともよく付き合われ、ずい分ご馳走してくれたものでした。年齢(とし)をとったら、若い人にご馳走しましょう。

このYさん、スケッチ旅行グループの常連でしたが、スケッチを終えて宿に着くとすぐ一杯飲みたいほうの人でした。ところが、私たちの師匠は厳しい方でしたので、夕食のときまで、私たち若いものは我慢しておりましたが、あるとき、Yさんいつの間にか宿に戻る前に地酒を仕込んできまして、皆がお茶を飲んでいるところで、師匠に「お毒味を」と言ってそれを注いだものですから、弟子とはいえ年上のYさんから勧められた師匠は流石に断れず、お受けになりました。それ以来、夕食前にも飲めるようになりました。

Yさんのお蔭であるのは確かですが、これもそう単純ではなく、師匠も年とともに寛容さが増したこと、弟子達の腕前もその人なりに上達し、「ろくな絵も描けないのに酒なんて10年早い」とは言えなくなっていたせいかもしれません。

さて、そのYさんの癌が見つかったのが一年前で、お医者さんが大の苦手だったこともあつて、手術も放射線治療も拒否し、免疫療法だけで、死を迎えたのでした。ご家族の方に後で伺ったところによると、亡くなる前の日まで大好きなお酒を飲まれたそうです。水を飲むとむせることがあつても、お酒はスッと入っていったそうで、良いことを聞いたと思いました。なんだから、Yさんはただ死んだのではなく、「死んでみせてくれた」ように思えます。

今年のイエスの十字架上の死を思う季節。また一歩深く味わうことができそうです。

お知らせ

※ 転入: 水戸教会より

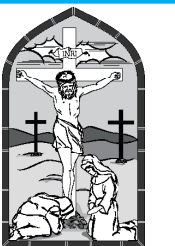
マリア 小堀 あや子様

ヨゼフ 小堀 浩一様

お住まいは、泉区弥生台です。

※ 四旬節の「十字架の道行き」 毎週金曜日、午後1時から行われます。

※ 3月29日(水)の渡邊神父様の「聖書の分かち合い」はおやすみです。





合同祈禱会参加記

岩崎 好愛

2月19日、この日、主日ミサの後、区内領家にある聖公会「横浜聖クリストファー教会」を会場に、昨年の中和田教会での初めての聖公会、カトリック両教会合同の祈禱会に続き、第2回目の合同祈禱会が行われ、渡邊神父様と共に11名が参加しました。



そもそもこの試みは、昨年、当時主任司祭であったジャック・グルニエ神父様と聖公会の片山司祭様の話し合いから始まったもので、1964年の第二バチカン公会議の公文書『エキュメニズムに関する教令』に基づく「キリスト教一致祈禱週間」（1月18日～25日）を念頭に置いて計画されたものと伺っております。今年も、片山司祭様から打診があつて、この件については鈴木主任神父様より渡邊神父様に委託され、渡邊神父様と片山司祭様との話し合いがもたれ実現となったのだそうです。

奇しくも19日のミサでの共同祈願のひとつに「分裂の罪によって傷ついた教会が一つになり、すべてのキリスト者が福音の光に照らされながら、神の愛をあかしするものとなりますように」というのがあつて、神様の促しをひひしと身を感じながら出かけていきました。

当日は正午に参加希望者が集合し、「昼食を共に」というクリストファー教会側の希望でしたので、ようか堂でおすしをもとめ、教会で用意してくださったお土産のお菓子も合わせて持参、車に分乗して向かいました。着いてからまず昼食のテーブルを囲みました。クリストファー教会からの25名程の方々と私たち11名は、交流を豊かにするために交じり合って席に着きました。テーブルの上にはあちらが用意してくださった豚汁も並び、自己紹介のあと和やかな交流が1時間ほど続きました。

食事後、会場は聖堂に早変わり、合同礼拝が始まりました。主司式は片山師、第一朗読はクリストファー教会の方、第二朗読は中和田の竹内氏、説教は渡邊師が当たられました。典礼の形式はほとんど違和感なく、集会祭儀といった感じですすめられました。ただ、例えば、開祭を参入、集会祈願を特禱、共同祈願を代禱、「また司祭とともに」を「また、あなたとともに」と言うなど使用される言葉の違いは多々ありました。

片山師が話された「神様の目からみたら、私たちはみな同じなのです」のお言葉のとおり、私たちは所属する場は違っても、みなキリストにつながる兄弟姉妹であり、ひとつになって福音を世にあかしすることが求められていることを深く自覚しました。

前教皇ヨハネ・パウロ二世も新しい教皇ベネディクト十六世も諸宗教の一致による平和の促進を求めておられます。せめて、身近なところでのこのような交流とか共に祈る機会は続けていきたいものです。



第8回共同体奉仕者養成コース＜聖歌と聖歌隊＞に参加して



石井 悠子・大宮 絢子

新年間もなくの1月14日、大船教会で行われた標記の研修会に二人で参加してきました。講師は、主日ミサ用冊子「聖書と典礼」の編集長であり、典礼神学者である石井祥祐氏でした。

聖歌（隊）のミサにおける役割として、以下のようにお話をされました。

- ① 典礼における信徒としての奉仕の重要性の高まりの中で、み言葉への奉仕者として聖歌隊がみ言葉を声に出して歌うことで、会衆の一致と調和が生まれる。
- ② 歌うときは、心と体がひとつになるように呼吸を整えて声を出す。
- ③ すべての「唱える」の根源は、個人を超えたことばによる共同体の一致である。
- ④ 主日ミサの選曲奉仕も、他の奉仕と同じように、独立したものとして確立されるのが望ましい。歌えなくても、弾けなくても、選曲はできる。

選曲に際しては、一年間の典礼暦にそって行われるミサでのメッセージをもとに、「聖書と典礼」などを活用しながら、入祭、奉納、拝領などの歌を選ぶことが望ましい。

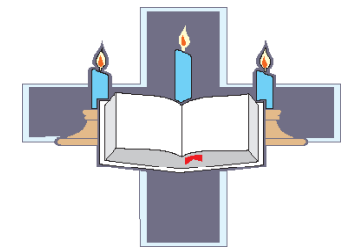
典礼刷新の経過のなかで、さまざまな現実の課題もあるようですが、典礼の中で会衆が声を合わせて一体となって歌い、唱えることで、一致と調和がもたらされるということでした。

大阪教区では、「聖歌隊」を「典礼聖歌奉仕グループ」と位置づけして、聖歌の奉仕を推進しているというお話もありました。

2005年典礼委員会報告

萩原 政弘

1. 2004年12月、典礼グループのマニュアルが制定されました。
マニュアルは、運用上不具合があれば、その都度改定される予定です。
2. 典礼委員を補佐するため、各奉仕グループのリーダーを以下のとおり決めさせていただきました。
進行（先唱者）グループ：森脇信行
香部屋グループ：青柳恵代
侍者グループ：大宮 智（要理委員と協調）
朗読グループ：阿部映子
聖歌・オルガングループ：大宮絢子（現在解散中）
生花グループ：松下ツヤ子



3. 各月の第1日曜日・・・典礼委員会
〃 第5日曜日・・・典礼奉仕者全員によるミーティング
4. ミサや他の祭儀のときの入退堂の行列に捧持する十字架を新調しました。
5. 10月のロザリオの祈りは、従来1名の先唱者が行っていましたが、グループリーダー2名ずつで先唱を行い、左右の座席の者が交互に唱えるようにしました。
6. 11月の死者のためのミサは、第1日曜日に奉げていただくことにし、毎日のミサ依頼者名簿への記入は取りやめることになりました。個人的に神父様をお願いしていただくことにしました。
7. 聖歌隊が解散したため、答唱詩編の詩編の部分は奉仕者が朗読台で歌うことにしていただきました。
8. 先に下村委員長が報告されましたが、教区の典礼研修会が年間を通して大船教会で行われ、10のテーマについて下村委員長が全て参加されました。その他、各専門のテーマについては7名が参加されました。

最後に、典礼委員として30年余り務めさせて頂きましたが、この度委員を引退させて頂くことになりました。長い間の共同体のみなさんのご協力に支えられ、なんとか務めおおせることができたと思っています。最近は典礼奉仕に関する信徒間の理解も深まり、協力者が増えたことはほんとうに嬉しいことと感じております。

長い間のご指導、ご協力を心から感謝いたします。ありがとうございました。今後は、典礼グループの一員として引き続き協力させていただきますのでよろしくお願いいたします。



要理学校のお知らせ



1. 4月2日より下記のごとくグループ割をして新学期をスタートさせます。

学年	担当者
中学生～小学6	高野神父
小学5～小学3	石井（洋）
初聖体クラス	美底
小学1～幼児	森脇

2. 6月11日藤沢教会にて堅信式がありますが、2月5日高野神父より堅信対象者（中学2年～小

学6年）の子供たちに堅信の意義などを話してもらい、堅信を受けるかどうか3月5日までに高野神父に報告することと致しました。

3. 3月5日（日）上杉神父の歓迎会に要理学校の子供達と小谷さんとハーモニカ演奏をやります。
4. 要理学校という呼名が堅苦しいのではないかと
いう意見があり、なにかそれに変わるネーミングはないかと考えておりますので、なにかよい案がありましたら、ご連絡ください。